

平成21年(2009年)10月22日  
山口県病虫害防除所

- 1 病虫害名 イチジクヒトリモドキ *Asota ficus*(Fabricius)  
2 作物名 イチジク  
3 特殊報の内容 新発生

#### 4 発生経過

- (1) 発生確認月日：平成21年9月30日  
(2) 発生地域：宇部市、山口市、防府市、岩国市、山陽小野田市、田布施町  
(3) 発生状況：

ア 山陽小野田市西高泊の露地イチジクにおいて、葉を食害するイチジクヒトリモドキと思われるチョウ目の幼虫を確認した。その後、県内各地においても同様な幼虫の発生を確認した。採集した幼虫は大阪府病虫害防除所により本種と同定された。  
イ イチジクヒトリモドキの被害は、国内では平成11年に愛媛県のイチジクで初めて確認され、その後、西日本を中心に13府県で発生が報告されている。

#### (4) 被害の特徴

若齢幼虫は集合性が強く、葉裏に群生し表皮を残して食害する。生育が進むにつれて分散し、太い葉脈を残して葉をほとんど食い尽くす(図1)。

葉が少なくなると果皮も食害する。



図1 イチジクの被害状況

#### 5 本害虫の特徴

##### (1) 形態

成虫は、前翅が褐色の地色に橙黄色、黒色、白色の斑紋、後翅は黄色の地色に黒色の斑紋がある(図2)。若～中齢幼虫は、頭部が黒色、胴部背面は全体に白っぽく、体の側面は橙色である(図3)。終齢幼虫は体長約4cmで、頭部はツヤのある黒色、胴体背面は灰色がかった黒色で腹面は橙色である。白く長い刺毛が生えており、刺毛基部は橙黄色である(図4)。



図2 成虫



図3 中齢幼虫



図4 終齢幼虫

## (2) 生態

ヤガ科に属する南方系の蛾で、卵は淡黄色で葉裏に数十個の卵塊として産み付けられる。若齢幼虫は集団で加害するが、発育が進むにつれて分散し、葉表にも生息するようになる。幼虫は老熟すると地表面に降り、土中の浅いところで土繭を作って蛹化する。

本種は年4世代を経過し、蛹の状態越冬するとされている。

## (3) 寄主植物

クワ科イチジク属のイチジク、イヌビワ、オオイタビ

## 8 防除対策

### (1) 耕種的防除

幼虫が葉裏に群生する発生初期に、寄生葉を取り除いて処分する。

### (2) 薬剤防除

果樹のケムシ類に適用のあるB T剤（デルフィン顆粒水和剤等）を幼虫の発生初期に散布する。